

臨時検討会(2010年9月3日)の分析結果

- ① エルニーニョ現象終了後の昇温効果とラニーニャ現象が発生した影響により、北半球中緯度対流圏の気温が非常に高くなった。また、北半球中緯度対流圏の気温は長期的に上昇しており、これには地球温暖化が関係している可能性が考えられる。
- ② インド洋の海面水温が高かったことやラニーニャ現象の影響により、インド洋及びその周辺海域の広い領域で対流活動が平年より活発となり、日本付近は勢力の強い太平洋高気圧の影響を受けやすくなった。
- ③ 冷涼なオホーツク海高気圧の形成が例年と比べて少なかったことや日本の東海上の高気圧が強かったこと等により、オホーツク海高気圧の影響をほとんど受けなかった。

2010年夏の異常気象に係る今後の関連行事・予定

- ・2011年度気象学会春季大会専門分科会の開催(5/18)
- ・気象研究ノート(2012年)

